

高知県の河川（流域）の特徴〈キーワード〉

<p>治水</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 雨が強い →対応不可能な降雨外力をうける地勢である • 急流のイメージがある(上流→中流→海) →網状デルタなし • 護岸等人工構造物が多い →河口付近, 高潮関連 • 河口閉塞, 感潮区間 →河口土砂の利用(深掘れ部の手当、産卵場の造成など) • 技術の伝承(霞堤、2線堤) →超過洪水対応 • 環境配慮指針 →河川整備技術のあり方(工事による影響に配慮を) • 環境保全型護岸ブロック →機能の確認(効果的な活用) • 維持管理 →次世代のことを考えて
<p>利水</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ダム問題 →建設を推進するかしないか • 渇水問題 →近年雨の降り方が変わってきている • 水利権問題 →将来的に見直すのか見直さないのか
<p>親水</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 泳ぐ気になる川 • 子どもが遊べる川 →泳ぐ気になる川は他ではなかなか見あたらない • 環境への配慮 →河川法改正(平成9年)以前の施設に対する手立て
<p>生物の多様性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 天然アユ →生物の多様性の象徴 • 人工林が多い • 河畔林(自然林の再生) →管理不能な人工林の自然林への復元が必要 • 砂防ダム(スリット化) →河床低下の一要因 • 上流から下流への物質循環 →土砂供給、環境改善 →自然収支の正常化 • 生物の移動性 • 濁度の問題 • 上下流・本支流の分断 →魚が遡上できる魚道
<p>暮らしと文化・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 雨と共生した川づくりがなされている(霞堤、2線堤) →自然と仲良く、したたかに生活している • 人と川の関わり →住民力も →行政主体のみではない(個々がマナーを守って) →暮らしとのつながり(産業:酒蔵, 和紙) • 様々な部局、NPO、ボランティア等との連携 →広い視点が求められる →ハード整備と共に使用可能となるソフト(しくみ)づくり (有効に働くしくみ) • 流域委員会、協議会 →住民が主体 • 環境学習